



英国の朝は、たっぷりのティーから始まります。これはどこの家庭でも決まり。私が滞在したデビス家ではアンティークのカップを日替わりで使わせて頂きました。これで今日もハードな仕事がこなせそうです。



毎日早朝5時にはロンドン中心部にある花市場に到着。日本と比べて、鮮やかな色合いのものが多いかな。



ディレクターのクリストファーさん。店頭で材料の打ち合わせ。



市場内には色々な資材も販売してます。こんな変わったものも。「ハロウィン魔女？」姉妹のようでしょ。



スタジオ内での作業の途中に「パチリ」作業中英国人は30分おきにティーを飲んでたかも。



スタジオの天井を見上げると「あっ」巨大なオブジェが、ウィリアム王子のバースティに使用したそうです。



今回使用する花材のごく一部。作業前に気がとおくなりそう。



第一会場の巨大アレンジ。約4m。下はローズマリーの器。作る時あまりの香りにむせてしまいました。



身長190cmのジョンが脚立に乗ってアレンジ。力と根気の要る



スタジオと会場の移動途中こんな景色を目にする事もよくあります。フローリストはロンドンの名所をよく知っています。







メイン会場の正面にある「王様の椅子？」  
いったい誰がすわるのでしょうか。



天井は「ルーベンス」の壁画。そう美術館を改造しちゃってます。床から作っていました。



会場前景。大道具さん照明さん  
小道具さんがいます。



なんと天井が映るピカピカのディナー  
テーブル。グラスもカッターももち  
ろん新品です。



花を置く前のテーブル。こんなきれいだ  
と、汚れそうで怖いです。



ピカピカに見えるよう、直前に花の器を  
洗いなおしました。そんなハブニングは  
よくあります。



「うーん満足」努力の甲斐があました。  
1個に約80本のお花が入って  
います。



ピンクのフロックスを吹き付けた器  
がとってもハイセンス。流行もので  
す。お値段もかなり張るそう。



実際には、高さ150cmほどの  
台にのっている巨大アレンジ。  
約300キロあります。







ナイトクラブの会場に設置される花アレンジが出番を待っているところ。高さ約3m。



ビックなアレンジ担当のジョンは実は可憐なアレンジがお好きのようです。心安らくのでしょう。



ライトニングのテストです。本番はもっと照明を落としてムーディーになります。手前の床はバラの「花びらを写したモニター」です。



なんとも不思議な電気の床でした。星の世界にいるよう。



歩くと天女の気分になります。



人が歩くと、バラの花びらがよけて道をつくってくれる。不思議なモニター。何もしないと、バラの湖です。ソムリエさん、みんな興味深々。



チューリップはホットー息つく場所に置かれていました。



ティーサービスの準備。カウンターももちろんこの日のためのデザインです。



友人のデイビス夫人。ご主人が仕事を終えた翌日の朝、やっと肩ののがおりました。



ディレクターのクリストファーデイビスさん。  
実は三世傳。アサの頃からニ・レ・メ舞台で

